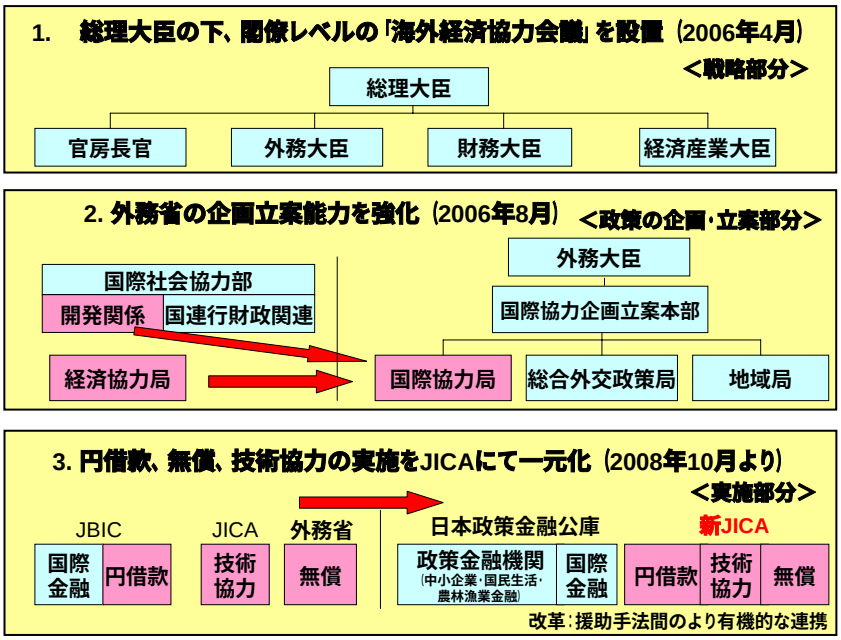
「新しい日本のＯＤＡ」
マニフェスト
ー国際協力を変える30の提言ー

「新しい日本のODA」を語る会
幹事　小嶋雅彦・大野泉
2007年12月4日

「開発の年」2008年
～岐路に立つ日本のODA～

2006年	ODA実施体制の改革 本格化
2007年	MDGs目標年（2015年）までの中間点
2008年5月	第四回アフリカ開発会議（TICAD IV）
2008年7月	北海道洞爺湖・G8サミット
2008年9月	OECD援助効果向上に関するハイレベル会合（2005年「パリ宣言」フォローアップ）
2008年10月	新JICA誕生
2008年11月	UN開発資金ハイレベル会合（2002年モンテレー会議フォローアップ）

日本のODA実施体制（「三層構造」）



出所: 外務省、「外交青書2007」 p.148の図をもとに作成。

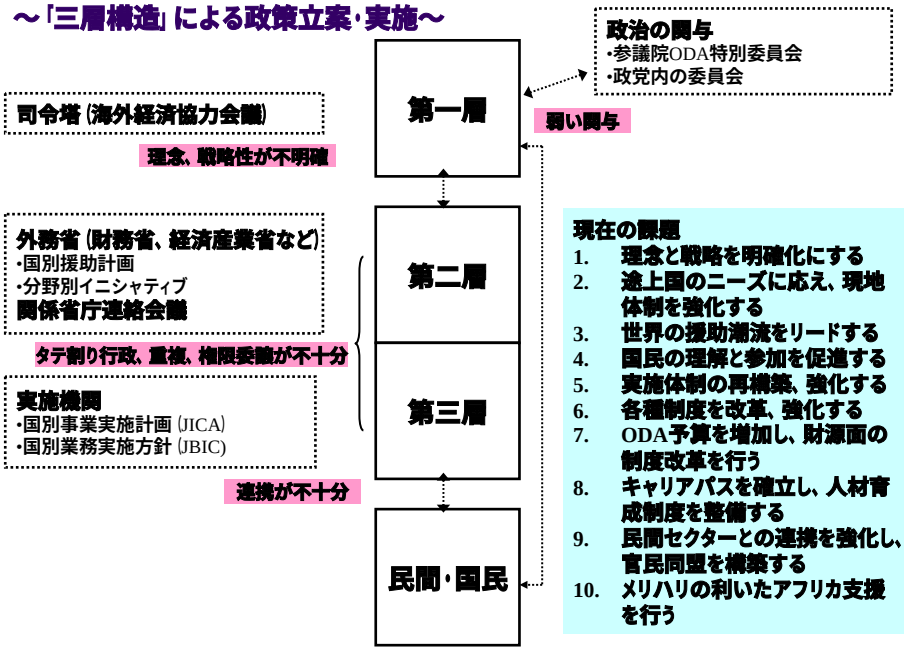
「新しい日本のODA」を語る会

- 日本のODAの現状に危機感をもった専門家が参集、個人の資格で参加
- 援助現場や国民参加の視点から日本のODAの課題、あるべき方向をオールジャパンで議論
  - 政界・マスコミ・産業界・NGO・学界・官界・援助実施機関など（総勢120名余）、【devforum】でも議論
  - 2006年7月から2007年10月まで、12回開催（政策研究大学院大学 事務局）
- ***私的マニフェスト*** 2007年10月24日公表！

マニフェスト　基本メッセージ

- 「ODA」から「国際協力」へ、オールジャパンによる戦略と政策立案・実施体制を築こう！
  - 理念・戦略について開かれた議論を
  - 政府・実施機関を中心とした「三層構造」から脱却、政治と民間・国民の参加にもとづく「四層構造」を
- 三つの「場」を軸に考えよう！　「日本」、「途上国の現場」、「国際援助社会」
  - それぞれの「場」で有効で理解される国際協力を
  - 三つの「場」を結ぶネットワークづくりを

現在の日本のODA
～「三層構造」による政策立案・実施～



現在の課題

1. 理念と戦略を明確化にする
2. 途上国のニーズに応え、現地体制を強化する
3. 世界の援助潮流をリードする
4. 国民の理解と参加を促進する
5. 実施体制の再構築、強化する
6. 各種制度を改革、強化する
7. ODA予算を増加し、財源面の制度改革を行う
8. キャリアパスを確立し、人材育成制度を整備する
9. 民間セクターとの連携を強化し、官民同盟を構築する
10. メリハリの利いたアフリカ支援を行う

「新しい日本のODA」
～「四層構造」、オールジャパンによる国際協力～

司令塔（「海外経済協力会議」）
「国際協力戦略会議」
（諸問機関、官民で構成）
- 理念、戦略
- 重点地域・国、重点イシュー、多国間援助

提言 2, 3, 6, 8, 18, 19, 20, 23, 27

外務省（財務省、経済産業省など）
- 地域別・国別援助政策
- 重点イシュー政策
- 国別援助額
- 二国間と多国間援助政策の調整

提言 12, 29, 30

実施機関（新JICA）
- 国別援助実施方針
- 重点イシュー実施方針

提言 4, 5, 13, 25

第一層

第二層

第三層

第四層（民間・国民）

政治の関与
- 国会に専門委員会の設置（ODA基本戦略と予算の審議）
- 政党内の委員会

「国際協力戦略シンクタンク」
- 戦略・政策提言

人材育成
- 「人材育成センター」

提言 1, 7, 21, 22

ODA行政改革
- タテ割り行政の一本化
- 予算編成、各種制度・手続き
- 現地への権限委譲

提言 14, 15, 16, 17

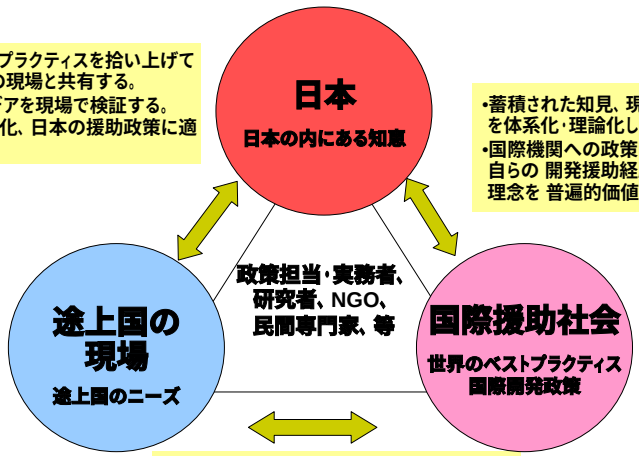
「援助実施者協議会」
（官民の連携・同盟）
- 企業、市民社会、NGO、大学との連携
- アフリカ専門部会の設置

「連携の組み合わせ」
（国民参加、広報）

提言 9, 10, 11, 24, 26, 28

三つの「場」で有効で理解される国際協力を
～日本・現地・国際援助社会を結ぶネットワーク～

- 現場のグッドプラクティスを拾い上げて整理。他国の現場と共有する。
- 革新的アイデアを現場で検証する。
- 体系化・理論化、日本の援助政策に適用する。



- 蓄積された知見、現地で支持された経験を体系化・理論化して発信する。
- 国際機関への政策的働きかけ。日本が自らの 開発援助経験を通じて培ってきた理念を 普遍的価値として発信する。

- A国のニーズにあった支援、知的インプットを時宜的に行う。
- 現地関係者・援助コミュニティに支持される。
- A国のグッドプラクティスを対外発信する。

日本の対アフリカ支援

- 日本のODAの問題の縮図
- 活発な援助協調と援助競争、援助規模で日本は小さいプレゼンス、国内では限られた人的・知的集積
- 2008年以降の対アフリカ支援のビジョン？
- オールジャパンによる戦略と政策立案・実施体制を
  （例：「援助実施者協議会」アフリカ専門部会、特別の制度設計、援助増額分をモデル国に配分・人材と資源の集中投入）
- 三つの「場」、プラス「アジア」を軸に

➔メリハリの利いたアフリカ支援、オールジャパンによる支援を！

「30の提言」 実現にむけて

- 広報・普及活動（マスコミ、市民社会、産業界、学界などとの協働）
- 政治への働きかけ
- イシューごとに有志でプロジェクトを企画・実施
- 変革は可能！（英国の経験から）

私たち、ひとりひとりが行動を！

Make Things Happen !

「新しい日本のODA」を語る会

ウェブサイトは、こちら。

http://www.grips.ac.jp/forum/oda_salon/index.htm

本マニフェスト作成にいたるまでの議論は、別冊【資料編】をご参照ください。

連絡先：forum@grips.ac.jp